

【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会公明党
参 加 議 員	【議員】 9 名 村松 徹、中島正寿、美濃部弥生、渡口 禎、富永 純子、久保井博美、日下部広志、森重博正、古里幸太郎
日 程	令和 8 年（2026 年）7 月 1 日（水）
詳 細	
視察日及び視察先	7 月 1 日（水） 墨田区現場視察：学校法人 立志舎 専門学校日本動物 21
視 察 内 容	災害時におけるペット同伴避難について
概 要	墨田区では、2024 年 11 月に学校法人・立志舎専門学校日本動物 21 と「災害時における愛玩動物及び飼い主の支援活動に関する協定」を締結し、災害時に飼い主とペットが生活できる、いわゆる“同伴避難”の体制をつくった。 視察当日は当該専門学校の現場の様態を見学した後、墨田区の生活衛生課ほか所管の職員、立志舎錦糸町キャンパス部長等から取組状況を伺った。東京 23 区初の先駆的な取組であり、同行避難から一歩踏み込んだ災害時対策として注目。会派で要望を重ねて行ってきた経緯もあり視察を行った。
所 感 等 （意見・課題・ 本市への反映など）	はじめに専門学校内にある同伴避難のスペースや、学生たちのトリミング実習の様態を見学。学校では、2 年制コースでペットケアのあり方やペット美容師をめざすグルーミングコース等のほか、3 年制コースで国家資格である愛玩動物看護師をめざし専門性を磨けるとなっている。こうしたコースを履修する中で“ペット防災”についても学習される。学校側は、学生が安全を確保できた時点で“防災サポーター”として貢献してもらえれば、との思いを示された。現在、区内で介護が必要な犬は約 8 千頭を登録しており、学生たちの存在は非常に頼もしく思われた。 その後、区における取組の経緯、内容等について説明を伺った。同伴避難の体制づくりについては、専門学校日本動物 21 の方から墨田区への提案が契機になった。災害時にはまず区内に 39 箇所ある指定避難所にペットと同行避難。昨年 8 月に“ペット用スペース設営キット”の配置も行った。これを組み立てる訓練も行っているとのことである。但し、この場合は飼い主、ペットが別になるので、（ペットが落ち着かないなど）避難所で過ごすことが困難な場合、専門学校の方へ共に移動するというステップを踏むとのことであった。 当該専門学校ではこうした自治体との災害時連携を既存校において展開。近々ではこの 8 月にも他区との連携協定も決定しており、ペットとの同伴避難受け入れを前提に開校を推進したい、との思いも語られた。民間と積極的に連携し、防災時の対応力を様々な観点から高めていく必要性も考えさせられた。 わが会派は、災害時におけるペット同伴避難の必要性も訴えているが、この墨田区のケースでは、第 1 次的に区が指定した避難所へ飼い主とペットは避難

し、その避難状況をみた上で同伴避難専用の施設へ移動するという一定の合理的しくみとなっている。

もっとも災害時の混乱も加味すれば、事前に同伴か同行かという“登録”をしておくことも可能ではないか、とも考えられる。本市にあてはめれば広域であるので、その点も勘案し、避難所からの同伴可能施設へ移動する負担も想定したしくみづくりもありえる。非常に示唆に富んだ視察であった。

視察の様子

